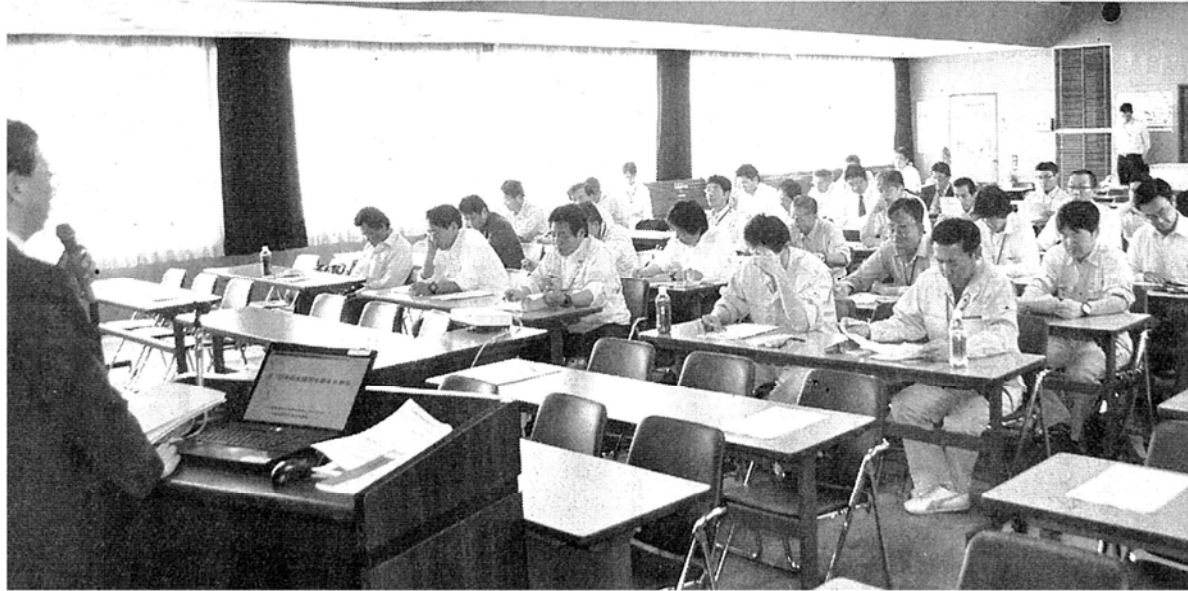


震災がれき

処理開始後も県関与を

県と市町
連絡会議
出席者から求める声

震災がれきの広域処理について情報共有するため開



がれき処理に関する県と市町の連絡会議＝津市広明町の県水産会館で

日、津市広明町の県水産会館であった。県は、パブリックコメント中のガイドライン案をあらためて説明。出席者からは、実際に処理が始まってからも県が主体的に関与するよう、求める声が上がった。

二十六市町と四組合の担当者、計四十二人が出席した。十六、十七日の両日に実施した現地調査や、受け入れ基準などを盛り込んだガイドライン案について県が報告。市町の意見を聞き取って修正したガイドライン案では、県関与を強めている。

質疑では、出席者の一人が「県は実際の処理に入っても協力するのか」とただし、県側は「県が主体的に（放射線量などを）測定すると書いてあるので、頑張る」と答えた。県は、来月初旬にもガイドラインを策定したいとしている。